



淡々レース 10月10日



各艇一斉にスタート！50艇以上のスタートは壮観です

淡々レースレポート

PUKUPUKU 市川

「淡々レース」は10月10日 56艇(250余名)の多艇参加のもと、華やかなレースとなった。前日の大雨とは打って変わって秋晴れとなり、8:30、WNW 5~6ノットの軽風で壮観なスタート。その後徐々に風が吹きあがり各艇快走。洲本沖のブイ辺りでは15~16Kn。波高も高くなり、中型~大型艇が有利な展開となった。結果、ファーストホームは大阪湾Wハンドヨットレースに続いて、アルピレオ。優勝は無双5。淡輪勢では、3位VIVACE、6位EMI、8位PUKUPUKU、9位スターダストと10位までに4艇。残念ながらゼネカーの風吹かず、TWO TONIは3連覇の夢を果たせなかった。

今回、スタートのコミッティーを引き受けていただいたOTYCシニアの皆様。ゴールで受け入れてくださったサントピアヨットクラブ・サントピアマリーナの皆様、予想を超える参加者をナイスホスピタリティーで満足させて頂き感謝 感謝！来年益々期待の淡々レース、皆で盛り上げていきましょう。



サントピアのMARI ZURU 80ftの重厚な船容は軍艦のような迫力で、後方に見える響がディングーのようです

スタートラインに向かう FORWARD



サントピアに向かい帆走する汐風



スタートするルカ



えええ？VIVACEが3位？？

VIVACE 中南

ここ数年クルージング主体となっていたヨットライフでしたが、メンバーからお祭りレースぐらいは参加しようとの後押しもあり、今年ファミリーヨットレースから細々とレース活動を再開したTeam VIVACEです。



淡輪最高位のVIVACE

どうもクルージングの習慣からか、船泊まりするとつい夜更かしが過ぎてしま

うようで、淡々レース当日もお隣の艇のクルーの方が集合されているのに気づいてようやくバースから抜け出すという何となくホホホ状態でしたが、還暦を迎えて再びヨットにチャレンジしようという新人クルーを迎えて、意気上がる早朝集合クルーの手助けで機装も完璧。スピンシートをライフラインのどこ通すんだっけ？という質問にも「大丈夫、大丈夫、その辺でOK、OK！」と鷹揚に答え、艇長会議にもギリギリ出席という、とってもらったリラックスした雰囲気です。

スタートラインを流しているとは本艇艇側がとっても混雑していたので、「なら、アウター寄りで行こうね」と真中ぐらいからアウターに流し、スタート直前には「やあ、真中膨れてるなー、ゼネリコかなあ・・・いやいやオールフェアみたげだなあ」と、ほんとにのんびりとスタートを切れました。

当時のヤマハのプロダクション艇の中でも超軽排水量型のY-28Sは軽風こそ強いもののちょっと吹かれるとその軽い腰が災いして、大ヒールに強烈ウェザーヘルムがでるといふNo1ヘビー以上の風になるとクルーの皆も「今日はなんとかゴール目指しましょう・・・」と言うぐらいサバイバルレースの様を呈し、中強風が苦手だったのです。今回もスタート直後は「おおうちの風！」と喜んでいたのですが30分もするとどんどん吹きあがってきたくらいに食らいついていたJ24ペアにどんどん置いて行かれ、スタートのアドバンテージで先行していたはずが他艇にバンバン抜かれていきます。まあいつものパターンね！と思っておったのですが、遠くにかすむJ24のペアが軽一落とし気味に帆走っておられるのを見て、「そそ、そうでした。メイン逃がして落とし気味でした」と先輩方の言葉を思い出し、艇を起こしてスピードビルドに努めるとウェザーヘルムも軽くなり、中強風でも初めてティラーを抱きかかえずに帆走出来ました。落として走っていた分、ゴール手前で一度ポートに返して上る必要がありましたが、ほほ片上り、レースから遠ざかっている我々にとってトラブルを起こすようなクルーワークもなかったことも幸いでした。ゴール直前で他艇とあわや接触の危機がありましたが、もっと早く回避行動をとっていたら、大幅にタイムロスすることもなく、安全にゴール出来たと反省しきり、最後の最後にリラックスしてレースするのを忘れてしまったことが失敗だったと、酒の肴になってしまいました。

主だったクルーの何名かの転居や家庭の事情などで来れず、老練メンバーが不足しますのでブイ回りのレースはちょっと無理ですが、還暦を迎えてヨットに戻ってき有望新人クルーも入ってくれましたので、ギャーって言いながらマーク回らずに済む三角なんかのレースなら参加していきたいと思っています。今回はレーティングやら、んやら本当にラッキーが重なって望外の成を頂戴しましたが、地力をつけて、他艇がマークされるくらいになりたいと思っています。

前夜祭の様子！JOY RIDEチームが腕を振りました



第3回ディンギーレース

9月26日



絶好のコンディションの中一斉にスタートする各艇

さあ、ディンギー走る秋だ！

暑さも寒さも彼岸までの言葉どおり、やっと猛暑から抜け出した9月26日、久しぶりの7艇の出場。天候は晴れ、北東の風4m、気温27度で絶好のコンディション。

コースは3角+ソーセージの5レグ。第1レース、第2レースは例によって、古谷選手（以下敬称略）が圧倒的な強さでトップを取ったが、第3レースで異変が起きた。なんと1上トップ回航は佐野、それに高野が続き、古谷は3番手。古谷は必死に追撃するが、佐野はトップを譲らず、古谷の完全優勝を阻んだ。

恵まれたコンディションにもよるが、夏の練習の成果が発揮されたのか、全員充分力を出し切り、上下の差が縮まり、見応えのある本格的な好レースであった。また、レース運営は「たんぱと」1艇、要員3名で行われたが、特に広田さんにはマークなどの積み込み、終ってからの塩出し、仕舞いなど大活躍があったことを特記しておきたい。（吉田 記）



第3レースで風のシフトおよび痛恨のコースミスを取り戻すべく先行の高野選手を猛追する古谷選手（左）

マーク回航中の長尾選手（右）と初参加の北出谷選手。また参加してください



上位に食い込むも古谷選手に優勝を阻まれた佐野選手
また参加してください

第3回ディンギーレース成績表

選手	艇種	1R	2R	3R	総合
古谷	シーホッパー	1	1	2	1
佐野	シーホッパー	2	2	1	2
細谷	レーザー	3	3	3	3
四力所 村上	シカラ	4	4	5	4
北出谷	レーザー	5	5	6	5
高野	シーホッパー	DNS	6	4	6
長尾	シーホッパー	6	7	7	7

第4回ディンギーレース

10月3日



雨・微風の悪条件の中、一斉にスタートする各艇

今回は雨・微風とコンディションに恵まれなかったが、悪条件を吹き飛ばす熱いレースが行われた。

息のあつてきた四カ所・村上組！
来年は優勝か？



第4回ディンギーレース

選手	艇種	1R	2R	順位
古谷	シーホッパー	1	1	1
高野	シーホッパー	4	2	2
細谷	レーザー	2	4	3
織田	シーホッパー	5	3	4
四力所 村上	シカラ	3	5	5
長尾	シーホッパー	6	DNF	6

淡々レース成績表（3位以下は淡輪勢上位のみ掲載）

艇名	艇種	着順	修正順
無双5	T-301	7	1
アルビレオ5	BENE-F40.7	1	2
VIVACE	Y-28S	24	3
EMI	MUMM-36	3	6
PUKUPUKU	PIONI-9	23	8
スターダスト	BENE-F36s	11	9
汐風	J-24	22	13
響	Y-26 IIS	26	14
グラシャス13世	FS-28	29	15
FORWARD	PW1000	33	16
幸宝	SWING34	16	17
SPIRIT OF SHIWAKU	MUMM30	6	18
リュウセイ6	FARR-34	9	19
TWOTON	J-92	10	20
Star of Bethlehem	SEALS R34	8	21
ソフレ	Y-25ML	39	22
海燕2	X-99	15	24
南風	WIN11.2	27	25
JOY RIDE	Y-30S II	28	28
ランプータン	BENE-F28	36	32
キラキラ	Y-31S	31	36
Ruker	Y-26 IIS	38	39
カオリンIII	ALBT-26	43	44
BIG SHOT	Y-30C	45	45

コスモスレース 9月12日

各艇一斉にスタート。いつもの風上に向けてのスタートでなため戸惑う艇もあった(中央は下トロ)



オープンクラス優勝

TWOTON 佐藤

いつものソーセージコースも「マンネリ」?でたまにはロングコースはいかが?とレースコミッティーのEMI & ヒートウェーブチームに提案しました。たしかにソーセージコースは風が弱くとも対応しやすく、レース成立させるのがたやすいですが、ロングコースもそれなりの難しさもあり、変化もあります。そんな私の勧めで以前に行った経緯がある関空方面と深日沖ブイ・回航の12マイル程度のコースを行うことにコミッティーが決定しました。



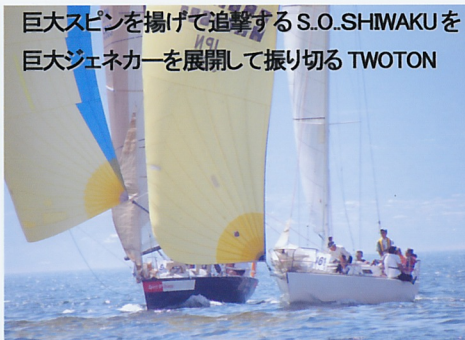
オープン優勝の TWOTON

IRC 優勝
Star of Bethlehem

風は西よりの3~4ms程度で徐々に上がっていく模様。フリーコースでのスタートで1艇のリコール・コールがあり横一線のスタート。関空手前まで約3マイルで左クォーターの風。わが艇に有利なジェネカーの展開で1マークをトップ回航し、深日沖のブイを目指す。苦手なクローズ・ホールドの走りでベツレヘムほか3艇に抜かれ、スタート地点のゲートをくぐる。深日沖ブイにさしかかると振れ回る風に各艇・苦労し順位が入れ替わる。復路はまたもやジェネカーでの走りでトップとの差を縮めてフィニッシュ。今回はジェネカーでの走りがパワー炸裂し快勝しました。

レース後はレース委員長・自ら有利なレースコースを導いたと苦言を言われました。たまたま風向きがぴったりはまったと言う感じで否めませんが、残暑厳しい中1レースで終了し、体力消耗が少なかったメリットもあったようです。またレース運営も本部船の移動がなく省力化でき、今後の再考と思われれます。

巨大スピンを掲げて追撃するS.O. SHIWAKUを巨大ジェネカーを展開して振り切る TWOTON



久しぶりに参加のS.O. SHIWAKU
今回はドリーマーチームと合同で参加



二色から初参加のラブニール!
また来てくださいね~



マーク回航直前スピンドウンに取り掛かるチビズル



グラシヤス(手前)と今回は冴えない走りだったRYUSEI6



スピんに風をはらんで気持ちよく走る海燕II



風があわなかったのか成績の振るわなかった響



コスモスレース成績表

クラス	艇名	艇種	着順	修正順
IRC	star of bethlehem	SEAIS-R34A	1	1
IRC	チビズル	SEAM31	3	2
IRC	Ryusei-6	FARR-34IMS	2	3
OA	TWOTON	J92j	2	1
OA	ラブニール	YAM31FESTA	4	2
OA	sprit of shiwaku	mumu30	1	3
OA	海燕II	X-99	3	4
OA	グラシヤス	FS-28	6	5
OA	Totoro	Y-23 II	7	6
OA	響	Y262T	5	7

ダブルハンドレース

9月20日



夜遅くまで大いに盛り上がる前夜祭
みなさん超ゴキゲンですが、明日は・・・大丈夫かな？

10時間半の死闘を制したのは・・・
大阪湾ダブルハンドヨットレース。感動のサンセットフィニッシュ。

PUKUPUKU 市川

9月20日、4回目を迎えたWハンドヨットレース。参加は22艇。OTYCからは、昨年の優勝艇汐風とメーベとPUKUPUKUがエントリー。



早朝7:00に淡輪沖をスタートするも、やがて逆潮に転じると、各艇微風の中、粘り強くレースを続けたホバリング状態。3時間たっても4時間たっても関空島がすぐに右手にほとんど動かない。そんな中、我慢が切れた艇から、リタイアが始まり、クルージングクラス5艇中多分2番目を確保していたPUKUPUKUは12:30にリタイア。先行はアルビレオ、追いかけるのはメーベ、2艇だけが抜け出し、スピンワークの神経戦を展開。参加22艇中20艇がリタイアする中10時間を超えるデッドヒートを制しファーストホームはアルビレオ。追うメーベはタイムリミットに間に合うか否か・・・。ハラハラドキドキの展開は、タイムリミット2分前に夕日に映えるゴールラインを切って、感動の逆転優勝。2年連続の淡輪勢の勝利となりました。



上左：前夜祭の様子
上右：氣勢を上げる市川会長
左：表彰される優勝したメーベのメンバー

いらっしゃ〜い

船客淡来



上架のためスロープに向かうBANNISTER

★オランダ艇“BANNISTER”寄港

10月16日(土) 昼過ぎ、オランダ艇 “BANNISTER”(パニスター、45ft、アルミ製)が入港しました。乗り組みはヘンドリック氏と夫人のハンナさんの2人。石垣、宜野湾、韓国、瀬戸内海各地を経ての来淡です。淡輪への先客シルバーソーンのマイケル氏とは宜野湾での知り合いで、それが縁で今回の寄港となったようです。

17日夕方、市川会長を始め13人ほどで、早速クラブハウスでウエルカムパーティーを開き、お二人およびマイケルさんも交え、太刀魚のサシミや、クラブバージやタオルなどの贈呈など、友好が深められました。しばらく淡輪に滞在されるようなので、みんなで友好を深めましょう。



POCAPOCA 近藤氏の釣った太刀魚、ハヤテ柿原氏の手作り料理などが並んだ

クラブバージやタオルを贈呈
ハンナさんは大変喜んでくれました



淡輪へようこそ!!
かんぱ〜い!

シルバーソーンのマイケルさんも加わって盛り上がりました



ノクチルカ編集部からのお知らせ

会員・準会員の方でパスワードを入力しても見れない方、パソコンをお持ちでない方はお知らせください。